

私は現在78才です。大阪で生まれ、太平洋戦争の空襲が激しくなるなか、6才で山口県に疎開し、そのまゝ遠縁の養女となり、中学1年生までを周南市の山脚部で過ごしました。

高校、大学、子育て時代を広島市で過ごし、37才の時、突然養母が他界し、残された養父と暮らすために実家の周南市に戻りました。

子育て中に、有吉佐和子さんの「複合汚染」という本を読んで、毎日スーパーで買った野菜には大量の農薬が使われていて、子供たちに安心して食べさせられる状況にはないことを知り、悩ましい日々を送りました。

そこで、無農薬有機の自給農家になりたいと思い、これまで父がやってきた田んぼや畑を引き継ぎ、仕事と兼之、農薬も化学肥料も使わない箱づくり野菜づくりに精いっぱいに取り組みました。お茶も自分で作りました。

そんな時、1986年、私が46歳の時、旧ソ連でチェルノブイリ原発事故が起きました。夫は、15歳の時広島で被爆していて、このニュースを聞いた時、これは大変なことが起きたと、すぐに事態を理解しましたが、私は8000kmも離れたかなたから日本にも放射能がとんできて、丹精こめた田んぼにも畑にも降り注いだということに大きなショックを受けました。

チェルノブイリでは事故後30年が過ぎた今も30km圏内に人は住めません。~~その外側で暮ら~~~~す人も、~~~~いまだに~~~~身体~~~~の~~~~痛み~~~~や~~~~さまざまな~~~~病~~~~気~~~~に~~~~苦~~~~しみ~~~~続~~~~け~~~~て~~~~い~~~~ま~~~~す~~。

~~あれほど苦勞して除草剤も使わず、毎日毎日草取りを~~
肥沃なウクウイナの穀倉地帯なのに農作物も育たられません。その外側で暮らす人も、いまだに全身の痛みやさまざまな病気に苦しみ続けています。

私はあれほど苦労して除草剤も使わず、毎日毎日草取りをして稲や野菜を育て、その上に放射能が降り注いだのでは意味がないと、本島に悲しくなりました。

その時から「原発、何だ」と思い、あちこちに話を聞きに行ったり、本を読んだりしました。そして8000kmどころか、自分のすぐ身近に上関原発計画があること、祝島の人達が強く反対しておられることを知りました。

「こんなに近くに原発ができたのではとても安心して暮らせない」と思い、夫と共に友人知人と声をかけあって集まり「原発いらん、山口ネットワーク」ができました。

その後、友人たちとはじめて上関町を訪れ田の浦に行った時、その風景の美しさ、そして海の美しさには息を呑みました。原発を作るとはいけないうのは勿論ですが、これほどまで

に美しい自然を壊してはいけないという思いが新たに私の胸に強く湧き起こりました。

現在、原発建設のために埋立計画のある田の浦は知れば知るほどこの海域にとって大切な場所であることが明らかになっていきます。

山に降った雨が地面にしみ込み、田の浦湾の海底から湧き水となって湧き上がってきます。この透明度の高い、しかも山の養分を豊富に含んだ湧き水が、田の浦の海藻群を育てます。この海藻群落は、本州では類のない豊かさで、西表島のそれに匹敵すると言われていきます。この豊かな海藻の群落が、魚の産卵場となり、その魚たちがいるからこそ、それを餌とするスナメリが瀬戸内海全体では減少し続けている中、この海域にはたくさんいます。

希少種や絶滅危惧種と言われる貝や生物もたくさんいます。

もともと山口県は海砂の採取を禁じてきま
した。そのことがこの周防灘の美しさを保つ
大切な要素になっていきます。先見の明があっ
た県人には深い敬意と感謝の思いを捧げたい
と思います。ここにこの田の浦湾から常時大
量に供給される透明度が高く、しかも養分豊
かな湧き水がこの海域全体の水質を保つこと
に貢献していると専門家は指摘します。

田の浦の浜で地質学者を驚かす複雑な岩の
模様があります。長い長い年月をかけて形
造られた地質が、この田の浦の奇蹟的な海を
つくりだしているのです。このような自然の
まるで魔法のような力は、人間が壊すことは
できても決して作ることはできないものです。
たとえ一度壊してしまっても二度と元に戻す
ことはできません。

2011年3月に福島第一原発の事故が起きま
した。福島湾の事故では東京23区よりも広い地

域が人の住めない場所になりました。

何世代にもわたって耕し続けた肥沃な大地も失われしまいました。

福島第一原発の事故による影響は、まだ全容が解明されているわけではありません。

この福島第一原発の事故を受け、^{当時の}二井知事は、埋立工事の一時中止を要請したのである。その後、原発の再稼働については議論されていきましたが、原発の新設や増設^はしないという大きな方針が決められました。この为上周^でに原発を新設するための埋立工事をする必要はなくなったのである。

現在電気を作る方法はたくさんあります。世界ではすでに自然エネルギーの発電量が、原発や火力による発電量を超えました。原発がなくても私たちは十分にやっていけるのである。

原発メーカーも事故対策のために徹しい安全基準を求められ、その費用が膨大になり、築き上げて来た会社そのものを失う事態にさ之到つています。どう考之ても原発に未来があるとは思えません。

この美しい海を埋立て、原発をつくり、40年たつて廃炉となつた状況と想像すれば、それがいかに愚かなことか想像がつきます。

私たちがこの訴訟の原告になつたのは、山口県は、フェルノアイリの事故や福島事故の教訓に学ぶことなく、~~毎年~~長い時をかけたつくられた豊かな田の浦の自然を壊し、私たちの生活を危険にさらすこととなる原発の建設を断念しなければならぬのに、その判断を先延ばしにしてきたことを^{とら}責めるためです。山口県は埋立をすることができないとわかつていながら、その判断を先延ばしにするために、中国電力との間で同じようなやりとりを

繰り返し、政治的な方向が異なるまで時間
稼ぎとしていただけです。

私たちは未来の世代のために悔いのない選
択をしなければなりません。

原発を新設するための埋立工事の必要がな
くなったのに、^{山口県}その判断を先延ばしにしたこ
とを許可することはできません。

三浦 翠